



撮影時のみマスクを外しております。

医事課のご紹介

「医事課」というと、あまり聞き慣れない言葉かもしれませんが、「医療事務」といえば耳にされたことがある方はいらっしゃるのではないのでしょうか。

皆さまが病院に初めてご来院されたとき、一番にお話しをさせていただく「初診受付」、最後に対応させていただく「会計」等、病院の顔ともいわれる受付窓口等のお仕事を担っているのが私たち「医事課」スタッフです。



「医事課」スタッフは、来院された皆さまが抱えている病気などの不安を少しでも和らげ、より良い信頼関係を保てるよう、笑顔で、親切丁寧な接遇を行うように心がけています。また事務作業で、お待たせしないよう、令和3年1月に新しく導入した電子カルテシステムを活用しています。

業務内容としては、①受付業務、②会計業務、③保険請求業務と大きく3つに分けることができます。

①受付業務は、受付窓口の対応やお伺いした患者さまの情報を登録し電子カルテを作成します。

②会計業務は、医師や看護師、検査技師等が行った診療行為の費用を計算し、会計窓口（自動精算機）にてお会計をいただきます。

③保険請求業務は、患者さま加入の健康保険等へ診療費の一部を請求する業務で、豊富な保険請求知識が必要とされる、専門性の高い業務となります。



保険診療のルールは2年毎に国により大きな改定が行われます。ここ数年の改正時は並行して高額医療費や難病治療に関する制度など、医療制度が目まぐるしく変化しておりますので、病気に対する不安だけでなく、診療費や医療制度などで不安な面を抱える患者さまもいらっしゃることでしょう。

医事課スタッフは患者さまの体を治すことはできませんが、そういった不安を少しでも取り除けるよう、日頃より知識の習得に励み、患者さまからの質問・相談にお応えできるよう心がけております。

お困りのことがございましたら、1階ロビーの受付窓口までお声がけください。



👉 「再来受付機」



👉 「自動精算機」

麻酔科のご紹介

1. 手術を受けられる方へ

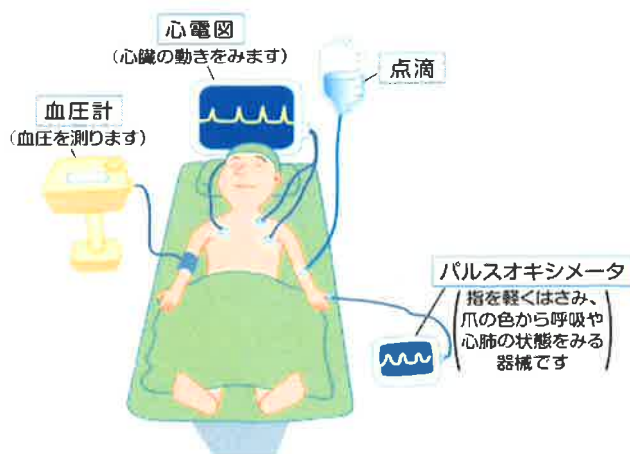
麻酔科は手術の前に麻酔を打つ仕事と思われていますが、実際には手術中ずっと患者さまの側に立ち合い、麻酔で意識がなくなった患者さまの血圧や、心拍などの生命維持を代行し、痛みを感じずに手術が行われているか、貧血は進行していないかなど、容態を常に監視しています。

手術中に何か異変があればすぐに執刀医に報告し、最善の状態ですべて安全に手術が行われるよう、手術という攻撃から体を守る仕事をしています。

手術前にまず診察を行い、その患者さまに一番適した麻酔の方法（全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔等）を選び、手術ストレスの影響が最小限になるように計画をします。

これから手術を予定している方で、手術中や手術後の痛みや不安がある方、麻酔が効くかどうか不安な方、副作用や合併症が心配な方は、麻酔科術前診察の際にお気軽にご相談ください。

安心して手術を受けられるようお手伝いをさせていただきます。



いろいろなモニターを駆使して安全に手術が行われるよう見守っています。

2. 体に痛みのある方へ

麻酔科痛み外来（ペインクリニック外来）では体のあらゆるところの痛みの治療を行っています。

「痛みの治療」というのは非常に難しく、画像や血液の検査で原因が診断できないことや、痛み止めの薬が効かないことが多くあります。

当科では内服薬による治療のほか、神経の造影やブロック注射による痛みの原因精査、高周波熱凝固による神経ブロック、カテーテル神経剥離術、脊髄刺激療装置植え込み術など様々な手段を用いて患者さまの痛みを取り除くよう努めております。

従来、手術が必要とされていた疾患でも手術はせず、当科での治療によって痛みのない生活を送っている方も多数おられます。

当科ではひとりひとりの患者さまとお話しをする時間を長く要するため完全予約制とさせていただきますが、どうぞお気軽にご相談ください。



腰部脊柱管狭窄症による下肢の痛みに対してカテーテル治療を行っています。

安全で安心できる出産を

～地域に根ざした大学病院で～

新型コロナウイルスの市中感染拡大に伴い、たくさんの不安を抱えている女性は多いのではないのでしょうか？妊娠を考えている方、妊娠中の方、出産を控えている方、子育て中の方など大変な思いで日々の生活を送っていることとお察しいたします。

当院では、「コロナ禍でもその人らしい出産を目指して」をスローガンにスタッフ一同感染対策をしながら母子の安全を第一に考え、立ち合い分娩が出来るよう取り組んでいます。スタッフ全員のマスクやアイガードはもちろんのこと、分娩室内の飛沫防止対策、体温測定や問診の徹底、環境整備を実施し、「感染しない、させない」を意識しながら勤務しています。

私たち産科病棟の助産師は、ひとりひとりの女性の思いに寄り添い、その思いを大切にしたい温かい関わりが出来るよう心がけています。

今年度は感染防止の観点から、従来の集団での両親学級を中止としました。その代わりに、助産師外来の予約枠を増やし、妊婦さんとそのご主人に個別での対応を行えるようにしています。

出産前の助産師外来では、1時間の外来診療の中でゆっくりお話を伺います。超音波検査では、これから生まれてくる赤ちゃんを診ながら妊婦さんと一緒に夢を膨らませています。出産への不安を抱えている妊婦さんのお話を傾聴し、時間をかけて不安を楽しみに変えられるよう関わらせていただきます。

また、バースプラン（どのように出産したいのか計画を立てること）を共有し、「その人らしい世界に1つしかない素敵な出産」を目指して、医師と助産師が一丸となってサポートをさせていただきます。分娩中は、助産師が常に寄り添い優しく声をかけ励まし、安心と安全な出産にむけてケアを行います。リラクセスを目的としたアロママッサージや足浴、楽しく笑顔溢れるコミュニケーション、分娩を進行させるために、助産師と一緒にスクワットや散歩など、妊婦さんの力を最大限に引き出せるよう努力しています。辛く、長い時間を一緒に過ごさせていただいた赤ちゃんの誕生の瞬間は、本当に素晴らしいものです。

私たち助産師は、この感動にいつも感謝し、当院でご出産していただいたお母さんたちの「心のふるさと」になることを願い、日々勤務しています。



出産後の助産師外来では、授乳や育児指導、また心配事などを伺い、ひとりひとりの生活に合った指導をさせていただきます。1か月健診では、ほとんどのの方が赤ちゃんと共に母子センターを訪れ、元気な姿を見せてくれます。そんなお母さんや赤ちゃんの笑顔は私たち助産師に喜びと活力を与えてくれます。

母親になった喜びを感じていただけるような関わりをこれからも行ってまいります。

多摩にある大学病院だからこそその高齢者看護

～地域に暮らす方々が、安全・安心な医療を受け、また地域に戻れるように～

多摩ニュータウンが1971年に入居開始してからちょうど半世紀が経過し、当時30歳代だった方は現在80歳代になっている計算になります。その多摩ニュータウンの中にある当院では、このエリアで長年過ごしてきた患者さまが多い傾向があり、多摩エリアに住む高齢者の方へのケアは当院の大事な役割であると考えています。

当院には高齢者ケアに関する専門的な知識・技術を有した老人看護専門看護師が在籍しており、「地域に暮らす方々が、安全・安心な医療を受け、また地域に戻れるように」を目標に掲げ、ケアを提供しています。

年齢を重ねるにつれ、病気のこと・介護のこと・お金のこと・・・と困りごとが多くなるほか、治療・検査や入院による環境変化に伴い、認知機能や身体状況に影響が出ることもあります。高齢者看護ではこうした困りごとに対応し、悪影響を最小限にとどめられるような関わりを大切にしています。

現在では新型コロナウイルス対策のため集合しての開催は行っていませんが、以前行っていた院内デイ（集団で行うリハビリ）でのノウハウを活かし、個別で体操やアクティビティなどを行って身体機能や認知機能の維持・回復を図っています。

この活動は認知症ケアチームを中心に行っていますが、当院では他にも患者支援センターや精神科リエゾンチーム（包括的な医療サービスであり、様々な診療科と密接な連携を取る役割を担っている）などのサポート体制を整えており、様々な職種のスタッフが協力し合っています。

それぞれが専門性を発揮するだけでなく、診療科や病棟などの院内の部門間はもちろん、他病院や施設・事業所など院外とも連携を取り合いながら、患者さまのLIFE（生命・生活・人生）を支えるべく日々取り組んでいます。

老人看護専門看護師
福山雄三さん



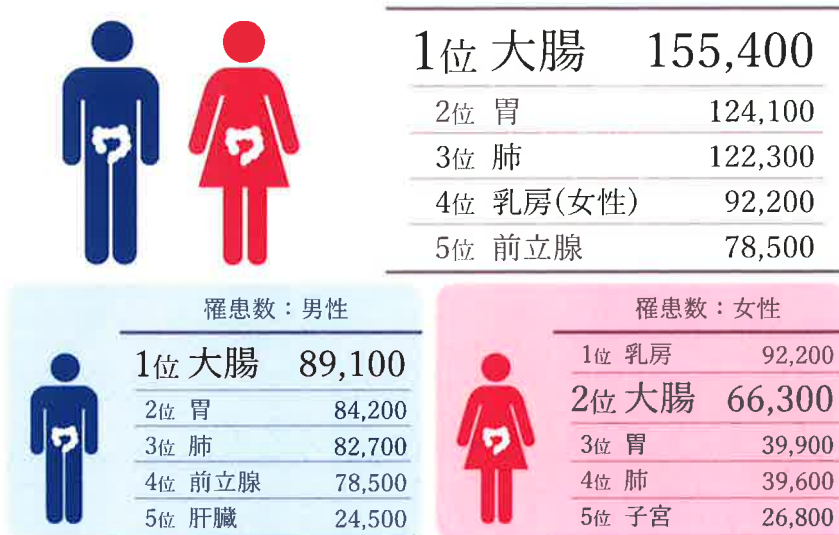
※専門看護師の役割については、厚生労働省や日本看護協会のホームページをご覧ください。

大腸がんとCTコロノグラフィーを使った大腸検査

1. 大腸がんは年々増加

大腸がんは、がんの中で最も多く（女性で2番目、男性で1番）診断され、女性のがんの死因で最多です（男性も3番目に多い）。50歳代から増加し始め、高齢になるほど高くなります。大腸がんの罹患率、死亡率は男性の方が女性の約2倍と高い傾向があります。

罹患数(新たに診断されるがん)の予測(2019)



(国立がん研究センター がん情報サービス 2019年がん統計予測より)

<https://shikoku-cc.hosp.go.jp/hospital/learn/results13/>



2. 大腸がんのリスク因子とリスクを下げる因子

1) 大腸がんのリスク因子

大腸がんの発生は、生活習慣と関わりがあるとされていて飲酒は、大腸がんのリスクを上げる“確実”な要因とされています。

また、赤肉（牛、豚、羊など）や加工肉（ベーコン、ハム、ソーセージなど）の摂取、喫煙により大腸がんの発生する危険性が高まります。

身体的特徴では体脂肪の過多、腹部の肥満、高身長といった方で、大腸がんを発生する危険性が高いといわれています。

2) 大腸がんのリスクを下げる因子

運動は、大腸がんのリスクを下げる“ほぼ確実”な要因とされています。

食物繊維の摂取は、大腸がんのリスクを下げる“可能性がある”要因とされています。

3. CTコロノグラフィーを使った大腸検査



1) CTコロノグラフィーとは

CTコロノグラフィーとは、肛門から大腸・直腸内へ空気を注入したうえでCT撮影を行い、画像処理を行って実際の内視鏡でのぞいているように画像を再構成する方法です。

実際の検査では、下剤を服用して大腸の中を空にして当日、CT検査台の上でお尻から空気を注入してCT撮影を行います。空気を入れるため、おなかが張った感じはあっても痛みはほとんどありません。

撮影は仰向けとうつ伏せの2回行いますが、10分前後で終了します。

2) 大腸CTコロノグラフィー検査と大腸内視鏡検査

大腸CTコロノグラフィー検査	大腸内視鏡検査
<ul style="list-style-type: none"> ● 検査時間が短い (10~15分程度) ● 内視鏡検査と比べ苦痛が少ない ● 麻酔が不要 ● 大きさが正確にわかる ● 大腸の形や他臓器との位置関係が把握できる ● ひだの裏側などの死角がない ● 平坦な病変は検出しにくい ● 少量の被曝がある 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 直接観察できるので、平坦な腫瘍や6mm以下のポリープなどの発見も可能で、病変の検出能が高い ◆ 病変があったときに、ポリープ切除や組織の採取ができる ◆ 大腸粘膜の色調観察ができる ◆ ひだの裏側など、カメラの死角がある ◆ 狭窄部がある場合は、検査ができない 

5月より大腸CTコロノグラフィー検査開始予定で準備を進めております。

早期の大腸がんでは全く症状がないことがふつうです。早期発見のためにも、大腸がんが気になる患者さまがいらっしゃいましたら、検査方法を含め当院消化器外科にご相談ください。



当院における新型コロナウイルス感染症予防に対する取り組み

— 昨年の12月から世界中で拡散している新型コロナウイルス感染症が、この多摩市・南多摩地域にも及んでいます。当院のこれまでの新型コロナウイルス感染症予防の取り組みをご紹介します。

1. 昨年第1波（4～7月）の際の取り組み

院内感染に細心の注意を払い、①ゾーニング、外来トリアージ（病院に入る際の体温、体調チェック）によって、発熱者は発熱外来での診察と必要時にPCR検査を行いました。②毎朝対策会議を開き、担当科のみならず全科でコロナ診療チームを結成し、対応しました。③当院は3次救急受け入れ機関のため、救命救急センターにはECMOを装着するような重症者の入院を受け入れておりました。

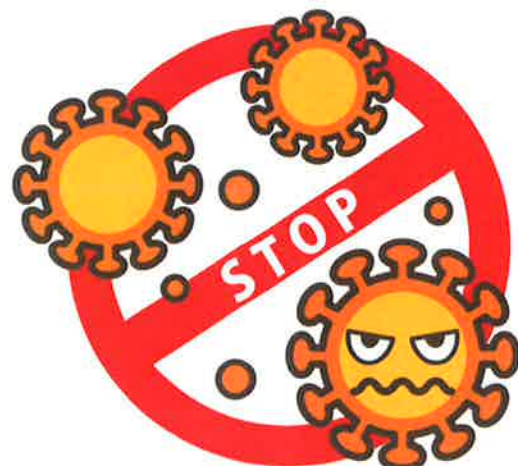
2. 第2波（8～10月）の際の取り組み

トリアージは解除しましたが、内科系診療科が交代で発熱外来を継続しました。また、第1波の際の緊急事態宣言後、感染者数は減少したものの、多くの専門家によって予想された第2波、第3波に備えて、外科系診療科で実施する全身麻酔下での手術、消化器内視鏡【上部・下部消化管、ERCP（内視鏡を用いて胆管膵管を造影する）】検査前の患者さま全員にPCR検査を外科系診療科、消化器系診療科が担当することで開始しました。

このように患者さまが、安全・安心な手術、検査が受けられるように対応し、医療従事者の院内感染の予防により一層力を入れてまいりました。

さらに、ビジネス渡航の再開に際して、ビジネス渡航者の「PCR検査の実施」ならびに「それに関する証明書発行」を10月より開設された総合診療科で開始しました。検査の予約は、予約センターへの電話で行っていただき、PCR検査の結果は、当院だけではなく、成田国際空港PCRセンターで受け取る事も可能となっています。

<https://www.nms.ac.jp/tama-h/news/12788.html>



3. 第3波(12~2月)の際の取り組み

当院は新型コロナウイルス感染症の重点医療機関にはならず、重症者やかかりつけの患者さまへの診療としました。また、コロナ禍で問題となっている、受診控えにより病状の進行したがん、慢性疾患、地域で必要な急性疾患の患者さまの治療および一般診療に力を入れました。

現状での取り組みとして、手術、検査前に行っているPCR検査は、院内で迅速に行うLAMP法(PCR法と比べ増幅効果が高く、短時間でできる検査)へ変更して継続しております。

また、第1波から行っておりました、病院入口でのアルコールによる手指消毒に加え、新たにサーモグラフィシステムを設置し、アルコールによる手指消毒、サーモグラフィによる検温にご協力をお願いしております。

さらに、診察や会計の順番をお待ちの患者さまへの感染防止対策として、外来の待合ソファに仕切板の設置を行いました。



👉 「サーモグラフィシステム」



👉 「仕切板」

このように当院では、医師、看護師をはじめ、全職員が感染予防に全力で取り組んでおり、地域の状況を見ながら、患者さまの安心・安全を第一に、新型コロナウイルス感染症予防だけでなく、地域の皆さまに役立つ診療をこれからも行ってまいります。

(文責：牧野 浩司)

《編集後記》

本誌をご覧いただいた方、今号が初めての方もお手に取っていただきありがとうございます。ご意見等ございましたら、「広報委員会事務局 [komuyo@nms.ac.jp](mailto:komyuo@nms.ac.jp)」までお寄せください。これからもよろしくお願いいたします。